

ブラジル リオデジャネイロ・オリンピックを 機に国際スポーツ大国に

山下 日彬

あと48日に迫ったリオデジャネイロ・オリンピック。聖火の国内リレーは5月3日首都ブラジリアをスタートし、3か月間、各都市でイベントをしながらブラジルを廻っており、今日6月19日はマナウスです。公式サイト www.rio2016.com で専用アプリをダウンロードすると毎日の様子を見ることができます。

南半球で最初のオリンピックで、期待されていましたが、市民の反応は、何度も優勝したワールドカップにくらべ、オリンピックはまだそれほど熱気はありません。大統領は弾劾裁判中、リオ州政府が資金難で非常事態宣言、あまりにも多くの工事を資金の裏付けなく始めて、まだ多くが工事中と、なんとも問題の多いオリンピックです。

ブラジル人は、大会よりもブラジルが出場する競技や、選手個人に興味を持ちます。6月15日に、選手村の31棟のビルのアパートの鍵が建設会社から引き渡され、7月より通訳などサポート組織も活動開始するので、世界206か国の選手が練習を始めて、街中で出会うようになれば、盛り上がってくると思います。

競技会場建設の進行状況はWEBなどで公開されているので周辺状況をお伝えします。

玄関口、ガレオン空港の第2ターミナルの拡張と大駐車場はほぼ完成しました。チェックイン・センターがAからIまで9か所になり、出発

ゲートがB25からB43まで完成、かなりきれいになりました。第3ターミナルは第2の出発ゲートの延長でC44からC62まで新設されて従来の2倍近くの駐機乗降ゲートを最終仕上げ中です。



第2ターミナルのチェックイン・センターがAからIまでとなった

ホテルは、ビジネスホテルが主に建設され、フランス系の ACCOR グループ（イビス、ノボテル。ソフィテルやメルクーレの所有者）だけでリオ市に27もできました。ビジネス



第3ターミナル全景 19駐機乗降ゲートがある

ホテルは一泊 R\$100（3千円）程度から変動する料金制で、部屋に電話はなく、ポーターもない、満室状況により料金が高級ホテルなみの日もあります。家族連れには不便だが、オリンピック後の外国客減を考えれば、この方が合理的と思われます。

ホテル協会によると市内ホテルは現在52,000室あり、IOCは最低4万室必要としていましたから、十分ということになります。5月11日現在で、88%が予約済み、イパネマ・レブロン界限98%、バーラ地区97%の予約率とのことです。



グアナバラ湾の水質は、空港の付近をみても、ゴミだらけで、汚染されていることは間違いなく、水中に落ちてもし決して飲まないようにしてください。競技場の付近の道路は拡張舗装され、1車線が緑色の線で区切られ、送迎バスや関係車輛、タクシーなどを通す専用レーンとなります。



専用レーンには緑の線と RIO2016 のマーク

2車線の道路では、一般通行レーンは1車線のみになり、地元の交通や駐車条件は最悪になるでしょう。またバーラ地区は海岸が砂地のため、普通は舗装しても半年もすればデコボコになりますが、2、3か月なら大丈夫でしょう。

6月18日の報道ではリオ州が資金難で、緊急必要資金5,700億円(190億レアル)の非常事態宣言をしましたが、財政破綻は2年前から起きていたことで、医師や教師の給料の未払い、年金の支払いが遅れたりしていました。

オリンピックは何としても決行するでしょう。会場警備は軍隊が出動するでしょうが、市や州の管轄の交通管理、会場外の警備、救急医療体制、病院などは機能しない恐れがあります。特に昨今は中国向け鉄鉱過剰生産と原油安不況で、失業率が12%を超え、失業者が急増しているので、路上強盗なども注意せねばならないでしょう。旅行者は注意が必要です。冗談抜きにして、自衛隊の

病院船が偶然リオに演習に来るようなことは期待できないでしょうか。

州としてははじめから、連邦の援助を当てにして始めたオリンピックです。ブラジル人はいつも何とかなるものと考えています。だが資金の目処なしに数年間も工事をしたので、工事場近辺の商業は殆ど閉鎖してしまいました。

今回はブラジリアでジウマの弾劾騒ぎ、リオ州の主要財源であるペトロプラスなどが原油値下がりの大赤字で予想が狂ったことは事実です。

道路の新計画は、リオ港付近の再開発工事はほぼ終了し、VLT(新路面電車)が走行を開始しました。



セントロに開通した VLT

道路拡張工事はサン・コンラッドからバッラへの海岸線の二車線拡張などを突貫工事中です。

2010年に始まったメトロのイパネマからバッラへの4号線の延長工事は、固い岩盤掘削や吊り橋が難工事になって、予算の3倍の3,000億円(98億レアル)もの出費になりましたが、8月1日開通の運びとなりました。

メトロから乗り継ぐ、ジャルディン・オセアニコ駅の工事は着々と進んでおり、BRT(バス高速輸送サービス)はバーラの COB(ブラジル・

オリンピック委員会)の前を通過してアルボラーダへ向かう線が7月完成をめざして突貫工事中です。



メトロ、ジャルディン・オセアニコ駅の上に建設中の BRT ステーション



アルボラーダ BRT 中央ステーション追加工事

オリンピックメイン会場からレクレイオの BRT 乗り換えステーションまでは7月完成を目指して突貫工事中です。

リオ中が突貫工事ですが、建設の側がわざと工事進行を遅らせるのは、ブラジル人の常とう手段で、ぎりぎりになんとか間に合わせる特殊能力もあるのです。

連邦の追加補助金を獲得し、工事側も時間外、休日、深夜手当を要求し値上げ、資材価格も高騰し、いいなりに払う仕組みです。競技場の競技するところは完成しています



レクレイオの BRT 乗り換えステーション工事

が、周辺はがれきの山のところもあり、アクセス道路は、今、工事を開始したところさえもあります。通常は開会式の日かその翌日に完成するのが、ブラジルの不思議工法です。

6月7日に、連邦警察はデオドロ地区の複合スポーツセンターの工事現場で、26億円（85百万リアル）の公金横領を摘発と発表しましたが、いずれにしても予算オーバーしているので、開催後は、しばらく財政難、汚職問題などでマスコミを賑わすと思われます。

複雑怪奇な政府手続きに仲介人が出没する、困らせて解決料をいただくのは、日本の江戸時代の悪代官と岡っ引き時代といった状況でしょう。

9月の7日から18日まではパリンピックが盛大に行われ、25競技、これまでの最高の5千人の競技者が参加するとのこと。これを機に

空港、BRT、VLTなどに、先進国には劣りますが、今までなかったバリアフリーの対策がとられているのがすばらしいです。

まだ開催もしていないのに、終わった後の話で恐縮ですが、オリンピック効果で、リオの大衆交通、ビジネスホテル、道路が著しく改善され障害者も住みやすくなります。なにしろこのオリンピック予算は会場費1,700億円（56億リアル）、交通手段7,200億円（240億リアル）と交通強化オリンピックです。

世界のいかなる紛争地域からも一番遠く、世界中の人種が居住し、宗教などの対立もなく、平和に楽しく過ごせる国であることを強調して、この機に国際スポーツ大国にするのはどうでしょう。

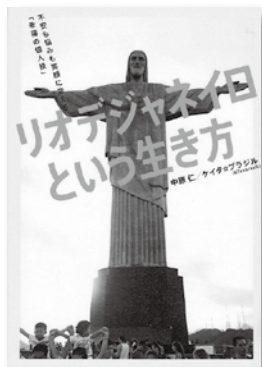
あえて工業輸出国を目指さないで、工業は国内需要に専念し、税制などは外資がやりやすい制度にしよう。国家産業は資源と食品に特

化する手があると思うのです。

スポーツでは、軍、労働組合、マフィア、ファベラ、警察、反体制団体なども、常にブラジルを応援する愛国心があるから全く心配はしていません。（2016年6月20日記）

（やました てるあき ヤコン・インターナショナル代表。リオデジャネイロ在住）

ラテンアメリカ参考図書案内



『リオデジャネイロという生き方 —不安も悩みも笑顔に変える「幸福の個人技」』

中原 仁・ケイタ☆ブラジル 双葉社
2016年5月 215頁 1,500円+税 ISBN987-4-575-31140-2

リオデジャネイロに長年通い詰めている音楽プロデューサーと打楽器奏者の共著による、この二人ならではのリオの紹介書。そこに住むコミュニケーションの達人揃い、粹に生きるべく死ぬまでセクシーでいたいという人びと。音楽とサッカーが人生のすべてだといい、人生の可能性を決めきってしまわずにそれぞれが「幸福」の個人技をもって、自然と混然一体になった美しい都市に生きている。リオの庶民の魅力の紹介にコラム、今すぐ行きたくなった人のためのガイドも付いていて、ガイドブックや紀行本にないリオの魅力を読者に伝えている。

（桜井 敏浩）